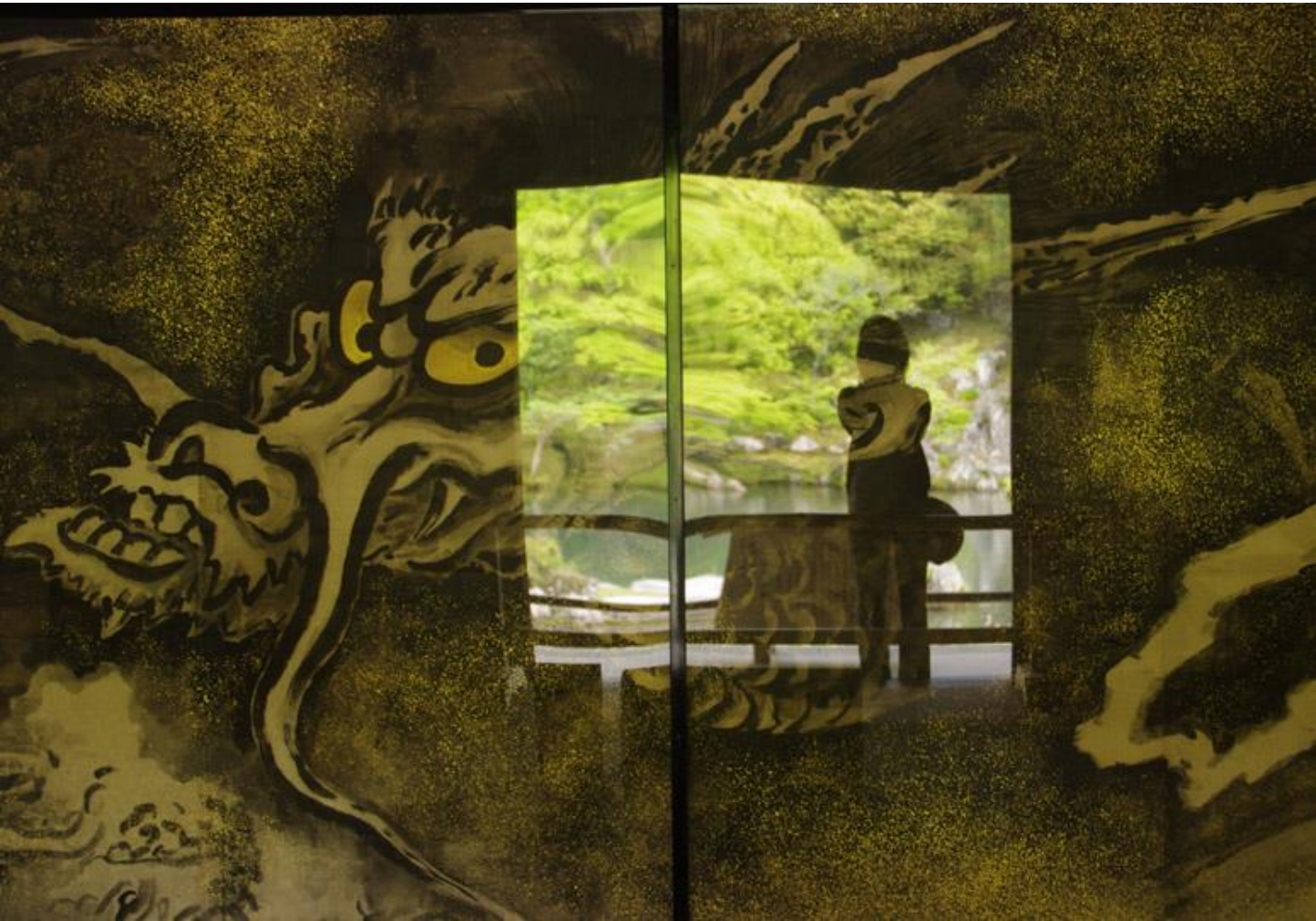


# Alt-Focus GRAPH

十人十色のフォトストーリー



2014年2月 創刊号



©Jin Akino

## 創刊のご挨拶

～受講生が撮り、受講生が書く広報誌～

写真教室アルトフォーカスでは、このたび8年目を迎えるにあたり、季刊発行を目標に、はじめてデジタル広報誌「アルトフォーカスグラフ」を制作することに致しました。

これまではアルトフォーカスの対外的な発表活動として、年に1度の受講生作品展を開催して参りました。今後は、教室内外の方々にさらにアルトフォーカスを知っていただき、また受講生の様々な表現活動の応援・紹介の場として本誌が読者の皆様に楽しみにしていただける媒体となるよう期待しています。

写真教室アルトフォーカス主宰・写真家 秋野 深

# アルトフォーカス 8年目を迎えて

アルトフォーカスグラフ創刊号では、教室8年目を迎えてのお気持ちや、講座で大切にしていることなどを教室主宰の写真家・秋野深(あきの・じん)先生にお聞きしました。

## 参加者各自のペースで、しっかり学べる教室を

### ——8年目を迎え、今のお気持ちをお聞かせ下さい

**秋野** 個人運営ですので、そんなに規模を広げてはいませんが、それでも受講生作品展とフォトコンテストも6回目です。多くの受講生の方との出会いがあり、立ち上げ当初のことを思い出して8年かと思うとやはり感慨深いですね。

### ——8年前、教室をはじめたきっかけはどんなことだったのでしょうか？

**秋野** アルトフォーカスをスタートした頃は、デジタル一眼レフが一気に普及しはじめた時期でした。私の個展会場でお会いした何人かの方から「写真教室はやっていないのですか？」とお声をかけられたことがきっかけです。写真を学ぶことに興味を持つ人が増えていたのだと思います。実際に自分で立ち上げるまでには迷いもありましたが、「写真を通して何かできるのであれば、広げていきたい」と考えたからです。そして、始めるからには細々とでも長く続けようと思いました。

### ——どんな教室にしようとお考えでしたか？

**秋野** 「趣味としての写真であっても、学びたい！という方々のための教室でありたい」ということを第一に考えました。楽しく参加していただけるようにすることはもちろんですが、「お付き合いの場を作ることがメイ

ンではなく」ということです。各自のご都合に合わせていろいろな方が来て下さっていい、単発で受講できる形式の教室にしようと思いました。ですから、会員制ではなく、入会金や年会費をいただく形にもしていません。無理なく自分に合った参加の仕方ができるようにしています。その上で、何回も来て下さる方々同士が写真仲間としてお知り合いになり、懇親を深めていかれる様子を拝見していると本当に嬉しいものです。

### ——その「写真を学ぶ」ということについて、大切にしている方針を聞かせてください

**秋野** 写真は、別に学ばなくてもカメラさえあれば誰でも撮れるものです。それがほかの多くの趣味と少し違うところだと思っています。何もできないところからではなく、写真を撮るだけなら簡単にできるところがスタート地点で、そこに何をプラスしていけるか。そういう意味では、写真って「すごく簡単ですごく難しいもの」だと思うのです。簡単に撮れるから基本をしっかり学ぼうという気にそもそもなりにくい(笑)。写りはするので技術的なことで勘違いや思い込みがあっても気がつきにくい。でもそんな中でせっかく写真教室に来て下さるのであれば、「基礎からきちんと学べる場にしたい。技術的なことは丁寧に説明しよう」と考えています。

### ——「はじめての一眼レフ」という講座が入口ですね。私も受講しましたが、本当に丁寧でわかりやすい講義でした。ほかに大切にしていることはありますか？

**秋野** カメラについて基礎をしっかり学んだ上で、いざそれをいかして撮るといふ時には、興味があるもの



は人によって違って当然です。ですから撮影者自身の関心や自由な発想を大切にしています。もちろん写真はひとりで楽しめるものですが、教室の良いところは様々な人が集まっていて刺激があることですよね。それぞれが自由にやれるからこそ、作品展やコンテストなどでの受講生間の刺激も大きいのだと思います。

### ——先生のお話の中に、「アルトフォーカスで、表現の幅を広げて今まで以上に写真を楽しんでいたきたい」というお話がありますね

**秋野** 「写真で表現する」という点では、写真をとりまく環境が変化していますね。SNSやブログなどが一般的になり、撮るだけではなく人に見せることを楽しいと思う人が明らかに増えています。人が撮ったものを見る機会も多くなっています。例えば全くの入門者としてアルトフォーカスに参加した方の中には、数年たってグループ展や個展を開催している方もいます。教室を8年やってきた時間を感じますね。必ずしもみんな

がそのステップをたどる必要はないですけど、写真が「撮るもの」から、より「表現するもの」になっていっている方々は増えていると感じます。

——撮りっぱなしにしないことが大切、ということも強調されていますね

**秋野** 作品展やコンテストの大事な主旨は、作品の評価そのものではなく、「撮って終わりではない」ということです。受講生のおひとりが、第1回目の作品展の後、「写真って、撮った先の経験がたくさんあるんですね。悩んで出す作品を決めたり、見た人の反応があったり。撮影時間はごくわずかでも、その後やるのが実はいろいろあることを知りました」と。そういうことを経験していただく場としての意味あいは大きいです。

**被写体の前では、いつも初心者意識を忘れずにいたい**

——「学ぶ」ということを基本とした上での自由度や教室の空気感を大切にされてきたように感じます

**秋野** 教室内の雰囲気として、「以前からいる方と最近入ってきた方に序列をつけない」ということも大切にしていくつもりです。上達に関しても、「謙虚に、みんな初心者でいいじゃないですか」といつもどこかで考えています。みんな…というのは私自身も含めてです。そういう姿勢を大切にしていきたいですね。

——先生の「写真家としての視点」とも繋がりますか？

**秋野** そうですね。どんなに機材や撮影方法に詳しくなっても、被写体とはいつも初対面。何度も行った場所でも、明日のその場所のことを私は何も知らない。被写体とはそこで初めて出会う。このことを考えたら、「自分は、ほとんどのことを知らず気がつかずに撮

っている」「初心者意識を忘れず」と、写真家として自分に強く言い聞かせるようにしています。「そんなところは何度も行って知っている」と思ったら、新しい発見はないですね。

——最後に、これからアルトフォーカスを受講しようと考えている方々にメッセージをお願いします

**秋野** サークルのような所属する形式の写真教室ではないので、「自分のカメラを使いこなせるようになりたい、写真の表現力を磨きたい」という方は、まずは基礎講座から試してみる感覚でご参加ください。また、2月には受講生作品展もあります。ぜひ会場にて受講生各自が自由に撮影活動を楽しんでいる様子を知っていただけたらと思います。



取材・文=飯島利枝子 撮影=大川幸治

## 写真教室アルトフォーカス

写真家・秋野深による個人運営の写真教室です。都内にて、主に一眼レフ、ミラーレス一眼ユーザー向けの講座、撮影会、フォトコンテスト、受講生作品展、懇親会などを開催しています。

土日開催で、テーマ別に1～3回で終了する講座が中心です。どなたも新規対象の入門講座からご参加いただいています。

ウェブサイト : <http://www.alt-focus.com>

Facebook : <https://www.facebook.com/altfocusphoto>

お問合せ : [alt-focus@alt-focus.com](mailto:alt-focus@alt-focus.com)

## 秋野 深 (Jin Akino)

1970年生まれ。福岡県出身。会社勤務の後、写真家・執筆家に転身。アジアやアメリカの自然風景、建築物、人々の生活や文化、日本の東北地方（鳥海山麓）の自然を撮影。クラブツーリズム海外国内撮影ツアー同行講師、写真講座講師。

JATA世界旅行博2008、JATA旅博 2011（於：東京ビッグサイト）にて講演。

2008年、ウズベキスタンの文化歴史博物館にて「独立17周年記念展示 秋野深写真展」を開催。サマルカンド平和と連帯の国際博物館にて永久常設展示。

2012年、NHK BSプレミアム『極上美の饗宴』の「シリーズ平山郁夫の挑戦（1）執念のシルクロード」にゲストナビゲーターとして出演。

近著『はじめてのイラン紀行 ラーハな時に身をゆだね』をアマゾンKindleより電子出版。

ウェブサイト : <http://www.jinakino.com>

Facebook : <https://www.facebook.com/jinakinophoto>

ステキ写真の秘密にせまる！

# あの受講生に会いたい

取材・撮影を担当するのも受講生。毎号、数多くの受講生の中からお一人ずつ、ご自身の楽しい写真ライフについてお話をうかがいます。

## Vol.1 木元 君江さん

### Profile Kimie Kimoto

定年後に何か新しい挑戦をと思い立ち、一眼レフを始める。友人の勧めで、2年前にアルトフォーカスの「はじめての一眼レフ」を受講。わかりやすい講義に「頭の中のモヤモヤが消えた」。近所の散歩、旅先では山や湖などの自然を撮るのが好き。第5回アルトフォーカスフォトコンテストで最優秀賞を受賞。



### 「目に見えないものを撮りたい」が原動力

——写真は今まで分からなかった身近な自然を感じられる様になり人生得した気分——

第5回アルトフォーカスフォトコンテスト最優秀賞に輝いた木元さんのコメントだ。「今まで分からなかった身近な自然」って？今回、受講生が受講生にインタビューする機会をいただき、そのヒントをもらえればと、受賞作品のエピソードからお聞きした。

第5回アルトフォーカスフォトコンテスト最優秀作品「終宴」 撮影地：小田原城址公園



「落ち葉が流れている写真を見て、流れるように撮りたいって思っていた。」選んだ被写体は夕暮れの水面に散った桜。排水溝近くで花びらが渦をまいているところを撮ったという。会心の1枚に大満足で終了…と思いきや、翌日の昼に同じ場所で再トライ！

「流れを撮るからシャッタースピードを遅くするでしょ。そしたら光が入りすぎて真っ白…(笑)」

この経験がNDフィルターを使うきっかけになったと「失敗は成功の母」を地で行く木元さんだ。

**光が好き。それは目に見えないものだから**

**いつもキョロキョロするようになった。**

小田原・箱根・富士五湖…。ご自宅から気軽に行ける自然豊かな場所が木元さんのお気に入りだ。「写真で散歩の楽しみが広がったわ。カメラを手に歩くと普段目にとめないものにも気付けるから。」インタビュー後、紅葉のきれいな公園を一緒に歩くと、木元さんの視線はいつも少し上に向けられていた。つられて見ると、黄葉した銀杏越しに感じる秋の光。「そう、光が好きな。水面で反射する光、花が光って透き通った感じとか。ついキョロキョロしちゃう！」

「わらわべ(童)」も「光」がきっかけで生まれた作品だ。日が入ってきた路面の輝きに見惚れていたら女の子が走ってきた。その一時夢中で何回かシャッターを切った。以前は人がいなくなるのを待ったが「最近人は通るのを待つこともある」とのことだ。

ご自身が好きなものを追求する一方で「人の写真を見ることも大切」という。ひかれるのは一見してどうやって撮ったかわからない写真。「見たままでは何か物足りない」から、いかに見えないものを表現するか、楽しそうに向き合っていらっしゃる。

「わらわべ(童)」 撮影地：湯河原・万葉公園



**次に撮ってみたいのは「止めた写真」**

そして、木元さんの「見えない世界」への挑戦は続く。「桜や雪がポワンポワンと宙で止まった写真を撮ってみたい！流れるのではなく、ピタッと時を止めたようなね。アルトフォーカスでぜひそういう実習をやってほしいわ。先生、よろしくお願いします！」



**木元さんへメッセージ**

ブーツインのジーンズ姿がカッコイイ“光ハンター”の木元さん、「止めた写真」を楽しみにしています。次の作品展、一緒に出品しませんか？

取材・文=山本玲子 撮影=宮澤範子

～ある出品者の心の中～

## 初めての受講生作品展

私は第6回アルトフォーカス受講生作品展に初めて参加する出品者の一人です。

作品展を目前にひかえ、実はまだ出品する作品も決まっていない段階ですが、作品展に参加するまでの経緯や実際の準備などを紹介させていただきます。

### 作品展はあえて自分に与えた課題

作品展に参加することは初めてですが、アルトフォーカス受講生作品展は第4回、第5回と2年連続で拝見しています。第4回の作品展を見た後、「来年は自分も参加してみたいなあ」と漠然と考えていました。ところが漠然と考えているだけでは参加できないということを第5回で知ることになります。展示できる点数には限りがあり、参加できる人数も決まってしまうからです。私が参加しようと思ったときは、時すでに遅し、募集は締め切っていました。このことを懇親会の席で秋野先生にお伝えしたところ、「物事には決断することも重要」と教えてくれました。その時、第6回の申込みは誰よりも早くしようと心に決めたのでした。

そして第6回の募集開始日、私はおそらく誰よりも早く申込みをしました。この日の自身のブログで「自分に新たなプレッシャーをかけました」という記事を記したことを覚えています。私は作品を撮りためていたわけではないので、「作品としての写真」を撮ることは自分自身に与えた新しい課題です。こうして「作品展に出しても恥ずかしくない写真を撮る」ことが2013年のひとつの目標にもなりました。

### 焦ってきた12月

予定では夏の間には作品展用の写真を撮り終わっているはずでした。私の写真の対象は山岳風景です。山岳で見られるダイナミックなシーンや荘厳な自然風景を撮ることが好きです。作品展にも山岳写真で挑戦しようと考えていました。

季節は早くも秋から冬となり、作品展が初めての人を対象とした説明会が12月中旬に開催されました。このときになってやっと、今年撮った写真をゆっくりと見直してみることに。ところが、これだ！という写真が見つかりません。急に焦ってきました。人は焦ると本来の目的から道を外してしまうことが多々あります。季節は冬、もう山岳写真を撮るには間に合わないと思い、被写体を山岳ではなくもっと身近なものにしてみようと自分にとっては逃げの方法を考え出しました。そこで寒い季節でも暖かい場所、水族館にカメラを持って出かけました。しかし慣れない被写体を慌てて撮ったところで、愛着が感じられる写真は1枚も撮れませんでした。

そんなときにふと目にした写真雑誌。ある1枚の写真に目を奪われました。それは作品ではなく、ある写真家が真冬の中禅寺湖に膝まで入って撮影している写真でした。本当に撮りたいと思う被写体があれば、寒いとか天気が悪いとか荷物が重いとか、そんなことは問題ではないのです。時間が許す限り、山岳写真に挑戦しようと思い直しました。

### 「大いに悩んでください」

これは説明会での秋野先生の言葉です。アルトフォーカスの作品展は作品の選定からプリント、額装まですべて自分で決めて自分でやるのがルールです。それは生徒自身が自分の写真にじっくりと向き合い、そこから新たな発見をしてより成長していくのが主旨だからです。今まで自分の写真を見直すことなどしてこなかった私にとって、まず作品を決めることが一番難し

いことを知りました。そして何も決められないまま1月になりました。

作品決定まで残り2週間をきりました。私は最近撮ったものだけでなく、7年前からさかのぼりもう一度写真を1枚1枚見直すことにしました。今、自分の写真というものに正面から向き合っています。ほとんど上達していない自分の写真に落ち込みながらも、次はもっとこう撮ろうという具体的なアイデアも浮かんできます。こうやって自分の写真を何度も見返すことが、こんなに勉強になるなんて思ってもいませんでした。先生が言われたとおり、今、私は大いに悩んでいます。でもせつかくの機会ですから、もっともっと悩んで納得のいく作品を選びたいと思います。



通常の私の被写体

慌てて撮りに行った水族館にて

### 最後に...

私は参加者のなかで出品する枚数がもっとも少なく、たったの1枚です。悩みぬいて選んだその1枚が、見ていただく人の心に何か残るとしたら、これほどうれしいことはないと思います。

文・写真=田口裕子

### ■第6回アルトフォーカス受講生作品展

会期： 2014年2月12日(水)～16日(日) 5日間

10:00-18:00 [最終日は16:00まで]

会場： 目黒区美術館区民ギャラリー B1F / A面

詳細： <http://www.alt-focus.com/exhibit/2014>

年1回開催している受講生の作品発表の場です。受講生有志25名と講師の作品を合計100点展示予定です。ひとりあたりの出品数は上限5枚で、今回から初めて作品展に出品する「初参加部門」を設けます。テーマ作品部門のテーマは「不思議」です。

出品作品、タイトル、額装は出品者各自が決定することを大切な主旨にしています。出品者が自分自身の過去の作品に時間をかけて向き合い、決断をすることがその後の撮影にとっても大切なことだとアルトフォーカスは考えているからです。そのため、出品者それぞれの関心や個性が表れた見ごたえのある展示になっています。皆様のご来場をお待ちしております。

第5回(2013年)作品展の様子



### ■入門講座『はじめての一眼(レフ)』

～シャッタースピードと絞りの基本をマスター～

日程： 第1回 5/10(土) 14:00-16:00 座学

第2回 5/17(土) 14:00-16:00 座学

第3回 5/24(土) 10:00-12:00 座学

14:00-16:00 撮影実習

会場： 機械工具会館 (港区三田)

JR田町駅、地下鉄三田駅より徒歩6分

対象： 一眼レフ、ミラーレス一眼ユーザー

受講料：¥13,000

詳細・申込： <http://www.alt-focus.com/020/14G.html>

内容：「いつもオート設定で撮影」「シャッタースピードや絞りを自分で変えて撮ってみたいけどよくわからない」・・・そんな方々を対象にした「露出」「シャッタースピード」「絞り」の基本を丁寧に学ぶ3回講座です。最終日の座学終了後は実習で座学の内容を実感して理解を深めていただきます。

動きの軌跡を幻想的に表現



背景をぼかした表現



### ■紀行文を電子出版

「はじめてのイラン紀行 ラーハな時に身をゆだね」(秋野深 著)

第1回文学メルマ！新人賞紀行文部門大賞作品「イラン・思考の旅」の改訂版をアマゾンKindleより電子出版(400円)。

写真25作品掲載。

詳細： <http://www.jinakino.com/j/book.html>



### ■ディノスショッピングサイトで連載スタート

カタログ通販ディノスのオンラインショッピングサイトで連載「写真家・秋野深のやさしい旅のフォトレッスン」が始まりました。旅行が大好きな方々向けに、旅の様々なシーンを想定したワンポイントレッスンです。コンパクトカメラ、一眼レフなどカメラの種類を問わず肩の力を抜いてお読みいただける内容です。

[http://www.dinos.co.jp/tabinchu\\_shop/column/photo/lesson01](http://www.dinos.co.jp/tabinchu_shop/column/photo/lesson01)

### ■秋野同行アメリカ撮影ツアー参加申し込み受付中

「大自然の造形美アーチーズの夕景とデスバレー国立公園アメリカ西部グランドサークル8日間」

日程： 6/10(火)～6/17(火)

主催：クラブツーリズム株式会社

アーチーズ、グランドキャニオン(北壁)、デスバレーなどアメリカ西部の大自然溢れる国立公園を巡る撮影ツアーです。観光ツアーと違い、朝夕など十分に撮影時間をとれます。

秋野深同行のクラブツーリズム撮影ツアー一覧

<http://www.jinakino.com/club-tourism>



# 7周年記念イベントレポート

2013年はアルトフォーカス設立7周年記念として3つのイベントが開催されました！

## ■7周年記念講座

2013年9月8日(日)【機会工具会館(田町)】

第1部は、「私の写真撮影～受講生の声を聞いてみよう～」と題して3名の受講生の方にゲストスピーカーとして作品の撮影エピソードや写真の楽しさ難しさなどを語っていただきました。ゲストスピーカーの方々からは「緊張したけど貴重な経験ができました」「自分の写真のことを言葉で説明するって難しいですね。でも思いきってお話してよかった」とのご感想。

第2部は「写真家・講師の仕事と視点」と題して秋野の活動紹介、仕事の魅力など日頃の講座とは違う話題でのトークの時間となりました。

### [参加者の声]

- ・自由な発想で撮影、いろいろな工夫…他の受講生の話が聞けてとても刺激になりました！
- ・無料講座で得した気分です！
- ・秋野先生がどういう経験や考え方で写真家に至ったのかを知ることができて、今後の自分の作品作りの参考にもなりました。



## ■7周年記念工場夜景撮影会

2013年9月22日(日)【塩浜運河、みなとみらい】

ゆめはま号(京浜フェリーボート株式会社)をチャーターして、30名の参加で船上からの工場夜景撮影会が開催されました。

横浜大栈橋横の象の鼻から日没前17:00に出航。徐々に空が茜色に染まる中、約1時間かけて船は塩浜運河へ。帰りは眼前に洋上から見るみなとみらいの夜景。

ところがこの日は風が強く東京湾内の波が高めで参加者は撮影には悪戦苦闘…。でもこういう機会でもなければなかなか入れないエリアでの工場夜景の様子を約2時間のクルーズでお楽しみいただきました。

### [参加者の声]

- ・個人ではなかなか行きにくい場所で、貴重な体験ができました！
- ・いつもと違う所から見た横浜が素敵でした！
- ・工場も間近から見たら迫力あって楽しかった。
- ・普段の撮影会より参加者が多く、初めてお会いする方とも船上でにぎやかに撮影を楽しめました。



## ■7周年記念トラベルクラブ撮影バスツアー

2013年11月24日(日)【山梨県甲州市】

小型バス(株式会社ジョイフル観光)でのアルトフォーカス初のバスツアーが12名の参加で実施されました。

甲州の秋の風物詩「ころ柿」が並ぶ甘草屋敷(旧高野家住宅)では、干し始めの美しい柿に光があたり、風情溢れる屋敷の畳や障子に面白く影が伸びていました。

武田信玄ゆかりの恵林寺では、紅葉・黄葉ともにちょうど見頃でした。午後の逆光に輝くもみじが映る境内の池の水面を皆さん熱心に撮影していました。

### [参加者の声]

- ・少人数のバスツアーでとても楽に参加できました！
- ・撮影時間がたっぷりあったので、いろいろ設定を変えて撮ったりできて楽しめました。
- ・美しい場所によい時期に行けたのでよかったです！
- ・ゆったりしながら写真撮影にも集中できて、充実した一日でした。



## イベントレポート「プリント体験講座」 (株)ピクトリコさんと初めてのコラボ講座が実現!

### ■プリント体験講座

2014年1月19日(日)【(株)ピクトリコ(墨田区両国)】

写真用紙の豊富なラインナップで有名な(株)ピクトリコさんのご協力により、「プリント体験講座」が開催されました。日頃はなかなか体験できない特殊な写真用紙で持参した各自の写真を3枚まで試すことができる体験講座で、第1部・第2部合わせて23名の受講生が参加。初のコラボ講座は大変盛況でした。各自最初の1枚は標準的な半光沢の「セミグロスペーパー」でプリント。残りの2枚は、つやの出るフィルム材質の「ホワイトフィルム」、画用紙のような「ナチュラルコットンペーパー」など表現意図に合わせて自由に用紙を選択。

写真は撮影して終わりではなく、その先にまだ表現の選択肢が広がっていることを楽しみながら初体験できたのではないのでしょうか。

【株式会社ピクトリコ <http://www.pictorico.jp>】

### [参加者の声]

- 用紙の種類が豊富なのに驚きました。今まで自分で使っていたものとは仕上がりが全く違いました!奥が深いものなんですね。
- 今後は「用紙の選択やプリントの仕上がりを想像しながら撮る」ということにも挑戦してみます。
- 紅葉の写真用に和紙に繊維の入った用紙を選んだところ、想像以上に落ち着いた味わいになりました。
- プリント段階で、作品を自分がイメージした世界により近づけることができるだけでなく、逆に新たなイメージを追加して別の世界観を楽しむこともできるんですね。
- 作品展に向けて、サイズや額・マットの色をあれこれ楽しく選んでいましたが、更に「用紙」という選択肢が増えたことは、嬉しい悲鳴です!(笑)



## Alt-focus GRAPH 創刊号スタッフ

### 飯島利枝子 (取材・執筆)

秋野先生へのインタビューで、「学ぶ・撮る・選ぶ・見せる…どれも丁寧に」と、あらためて実感。現在、受講生作品展の準備中です。丁寧に進めようと思います。

### 大川幸治 (撮影)

媒体に掲載するために写真を撮る、という今までにない貴重な機会を得ることができ、良い刺激を受けました。堂々と人にレンズを向けられるので、結構病み付きになりそうです。

### 山本玲子 (取材・執筆)

「光に注目」「目に見えないものを撮る」--- カメラを構えたとき、受講生・木元さんの言葉が自分の中でリフレインしました。新しい「視点」のおすそ分けに感謝です。

### 宮澤範子 (撮影)

今回初めて『特定の人物をじっくり撮る』という体験をして、とても興味深く勉強になりました。新たな写真の楽しみを感じる事が出来て良い経験になりました!

### 田口裕子 (執筆)

何事にも好奇心旺盛!今回はそんなエネルギッシュな方々とともに、ゼロから一つのものを作り上げるという貴重な経験ができました。さまざまな出会いに感謝。

### 太田一朗 (レイアウト・IT技術)

Alt-Focusはこんな体験も出来る。制作に参加したいと思える魅力がありました。好きだからこそ協力しあい、作り上げる感動体験。きっと写真をもっと好きになれる!

### 秋野深 (監修)

暗中模索の創刊号制作。教室運営と同じで、きっと継続は立上げよりずっと大変。それでも人が集まれば一人では無理なことが進み始める。8年目の嬉しい新たなスタートです。

表紙写真:「タイムスリップ」神代奈保子 [京都・天龍寺]  
屏風絵の前のアクリル板に庭園の情景が反射。眼光鋭い龍と揺らめく新緑の重なりが醸し出す不思議な世界。

Alt-Focus GRAPH 創刊号

発行: 写真教室アルトフォーカス

発行日: 2014年2月1日

<http://www.alt-focus.com>

[alt-focus@alt-focus.com](mailto:alt-focus@alt-focus.com)